

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100941		
法人名	社団医療法人 三和会		
事業所名	グループホーム たんたん		
所在地	〒020-0502 岩手県岩手郡雫石町板橋3-7		
自己評価作成日	令和7年11月10日	評価結果市町村受理日	令和8年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内には介護老人保健施設が併設されているため、利用者様の急変時や医療面の協力が必要な時等には、医師や看護師が速やかに対応することが可能であり、利用者様は安心して生活ができる環境です。当ホームの活動においては、特に季節の行事に力を入れております。今秋は貸し切りバスを利用し、ご家族様にも参加をしていただき、田沢湖へ日帰り旅行を行いました。また、ホームの裏には畑があり、利用者様と一緒に多くの野菜を栽培、収穫することで季節感を感じる機会となっています。その他、一年を通じて利用者様の思い出に残るような行事や活動を考えて提供させていただいております。最後に、当ホームでは猫(マイケル)を飼っています。穏やかで行儀が良いオス猫です。猫が苦手な利用者様も、すぐに皆さん可愛がるようになるくらいとても人懐っこい猫です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小岩井農場に近い豊かな自然環境に囲まれ、同一法人の老人保健施設、通所リハビリテーション事業所、居宅介護支援センターが隣接する、開設22年目の事業所である。交流活動を積極的に行っており、町と共催する認知症カフェや、法人が毎月交互に開催する「喫茶」「居酒屋」に全員で参加したり、また、地元小学校の運動会や学習発表会の見学、中学校の職場体験実習の受け入れなど、幅広い地域との交流活動を展開している。外出活動では、家族も参加してバスハイクで田沢湖を訪れたり、道の駅や盛岡市内へ出かけ、外食やアイスを楽しむなど、利用者の生活に潤いを与えている。食事面では、利用者の嗜好を反映した献立を工夫し、畑で栽培した野菜や差し入れの食材、旬の食材を活用して職員が調理を担当し、利用者と同席して会食することで、家庭的な雰囲気をも大切にしている。理念である「尊厳」「家庭の」「個性を生かす」を柱とし、居宅に近い環境で生きがいのある生活を支える個別ケアに徹している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	在宅生活の延長ととらえ、利用者それぞれに、得意とする家事や作業を行っていただいたり、個性を活かしたケアを提供するように心掛けている。利用者の思いをスタッフ間で話し合いケアに取り入れるなどの実践につなげている。	開設時に定めた理念「尊厳」「家庭的」「個性を生かす」を柱とし、事業所内の玄関など複数箇所に掲示している。職員は毎朝の申し送りや半年ごとの振り返りを通じて理念を確認し、日常業務において共有・実践を図っている。これにより、利用者が「個性を生かし居宅同様の生きがいのある生活」を送れるよう、例えば、利用者それぞれができることを行い、スケジュールにとらわれずそれぞれのペースでゆったりと行動できるような個別支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	認知症カフェや秋祭りを法人で開催し、カフェ終了後に施設見学を行ったり、祭りでは近隣住民の皆さんと利用者が一緒に歌や踊りを楽しまれた。また、近隣住民が自宅で収穫した野菜などの差し入れがあったり交流が図られている。小学校の運動会や学習発表等にも出向き、小学校でも施設訪問をしてくれたり、交流が多くなっている。また、中学校の施設訪問を受け入れ、生徒からの質問に応じる機会もあった。	町内会に加入し、回覧板を通じて地域情報を共有しているほか、法人の行事案内を地区全戸に配布するなど、地域住民への情報発信を積極的に行っている。法人30周年の節目には大規模な催しを開催し、“祭”には多くの地域住民が参加するなど、地域との結びつきが強い。また、地元小学校の運動会や学習発表会の見学、中学校の施設訪問受け入れなど、学校との交流も活発である。このように、利用者が入居後に在宅時の交流機会が制約される点を踏まえ、法人本体と一体となって地域行事への参加や案内を行い、多くの住民との接点を確保している。さらに、積極的に地域へ出向き学校との交流を継続しており、利用者が潤いのある豊かで変化に富んだ生活を送れるよう配慮されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェの際には、認知症に関してや看取りの勉強会を行った。以前には天気の良い日には散歩に出かけ近隣住民と交流ができていたが、今年は熊の出没が相次ぎ、散歩に出かけることが出来なくなっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で認知症の勉強会を開催し、日々行っている支援方法など、話をさせていただいた。また、職員間で解決できないことは、皆さんに問題を提起し意見を伺ったりすることもあった。	運営推進会議には、家族代表、地域住民、民生委員、町福祉課職員が委員として参加し、利用者の状況や活動報告を共有している。会議では意見交換に加え、認知症に関する研修も行われ、委員の理解促進と地域全体の支援力向上に寄与している。また、家族代表からの「暑さ対策としてエアコン設置」の要望を受け、今夏に実際に設置を行うなど、会議での意見が具体的な改善につながっている。運営推進会議を通じて事業所と地域・家族が連携し、利用者の生活環境の質向上に結びつけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナが5類に移行されてからは、役場に出向き書類提出や電話でのやり取りで以前のようにできるようになっている。また、秋のバスハイクでは、役場の担当者が参加して下さり、利用者と一緒に過ごすことで日頃のケアの状況を見ていただくことができた。	運営推進会議等の関連書類を役場へ直接持参し、担当者に手渡すことで、顔の見える良好な関係を築き、町との確実な情報共有を行っている。また、町の地域包括支援センターと共催で認知症カフェを開催するほか、町の担当者が運営推進会議に出席して助言を行い、事業所のイベントにも参加して利用者や家族と交流している。市町村の関係機関と継続的に協働することで、利用者支援の質向上に結びついている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束についての研修を行い、全員が受講するようにしている。エスケープの可能性のある利用者には職員間で情報を共有し常に観察を行うように注意をしている。	法人内に身体拘束防止委員会を設置し、指針を策定のうえ年2回の研修を実施するなど、組織的な体制整備が行われている。現場では、不適切な声かけ(例:「ちょっと待ってね」)に対して職員同士で即時に指摘・共有し、一言付け加え理由をわかりやすく丁寧に説明する対応を徹底することで、拘束に繋がり得るコミュニケーションの是正に取り組んでいる。委員会の指針、定期研修、日常の相互チェックが連動し、玄関の施錠を含め「身体拘束をしないケア」の実践が行われている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で高齢者虐待の研修を行い、全員が参加するようにしている。お互いが注意できる環境で声をかけ合うように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で権利擁護についての研修を行い、全員が参加している。成年後見制度を利用している利用者は今までいないが、今後活用する可能性もあるため、役場と関係職員と相談ができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際にはグループホームについてわかりやすく説明することを心掛けている。ほとんどの家族が不安を訴えるため、安心できるように説明をしている。疑問点は電話での問い合わせも可能であることを伝え理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し、要望やご意見を伺う場を設けた。今年度は家族からの要望として居室にエアコンを設置してほしいとの要望が出された。会議には法人の代表者にも参加してもらい、早急に対応してもらい、会議の2ヵ月後にはエアコン設置することができた。	家族会の開催に加え、面会や通院同行で来所した際に家族の意見や要望を丁寧に聴取している。その中で、家族から「暑さ対策として居室にエアコンを設置してほしい」との要望があり、法人と協議のうえ今夏に居室へエアコンを設置した。利用者や家族からの意見を運営に反映し、生活環境の改善につなげており、意見聴取の仕組みが日常的に機能している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送りの際に職員からの意見を聞く機会を設け業務の見直しを行ったり、年に数回職員が集まり会議をして意見や提案を聞く機会を設けている。	職員会議「たんたん会議」を年数回開催しているほか、朝の申し送りや日常の会話を通じて職員の意見や要望を把握している。その結果、夜間に玄関や非常口が暗いとの声を受け、センサーライトを設置するなど、職員の意見を具体的な改善に反映している。職員の声を日常的に収集し、運営に活かす仕組みが機能しており、安全性や職員の働きやすさの向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体の会議が毎月1回開催され、職員の勤務状況などを報告できる場がある。残業など時間外の労働がないよう配慮し、万が一あった際には給与に反映できるようにしていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で行う研修には全員が参加している。法人内外の研修として認知症実践者研修や医療的ケアの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県の小規模多機能協会の研修や今年度は実践報告会で発表も行う予定(12月)。相互訪問はコロナが5類になったものの難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時には特に関りを多く持ち、早く慣れ親しんでいただくよう声掛けをしている。他の利用者とも関係作りができるよう間に入り、会話をしたり不安を取り除くように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時にもわかりやすいように説明しているが、家族の要望を取り入れながら不安を取り除き、信頼関係が早く築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	基本情報を踏まえ、本人や家族が何を望んでいるか職員間で話し合い、ケアの統一を基本としている。ケアをしていく中で他のサービスも利用が必要か必要性が考えられる場合にはご家族と話し合い提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事を一緒に行うことで家族の一員としてとらえ、「ありがとう」の言葉で感謝を伝えるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状態を病院受診時や電話連絡の際に伝え、困った時には相談したりすることがある。病院受診は基本家族受診とし、定期的に本人と顔を合わせる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前、カラオケ教室に通っていた利用者をカラオケボックスに連れて行ったり、道の駅や町内の観光地に外出したりする機会を多く作っている。	入居時には本人や家族から、馴染みの人や場について丁寧に聴取し、生活支援に活かしている。家族や親戚の面会に加え、通所事業所を利用していた際の馴染みの人との交流を継続するなど、人とのつながりを大切にしている。入居後も「どこに行きたいですか」と定期的に聞き取り、馴染みのある「道の駅」や温泉にドライブで出向くほか、家族の協力により外出や外泊を行う利用者もあり、入居後も地域や家庭との関係を保ちながら生活できるよう配慮されている。馴染みの人や場との関係継続を支援する取り組みは、利用者の安心感や生きがいの維持に寄与している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	諸活動には全員が参加し必要な際には職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いをしたり、孤立状態にならないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同一敷地内の介護老人保健施設に移る利用者が多く、合同行事等で顔を合わせる機会も多いため、声をかけたり、面会に行く機会もある。また、ご家族が面会にいらした際にも声をかけることも多い。契約が終了して5年が経過した利用者のご家族が猫のおやつやご飯を差し入れして下さることもあり、その際に近況を話してくれる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的な会話から何を望み、何をしたいのかヒントを得て、職員間で得た情報を話し合いケアをしている。無理なこともあるがなるべく希望に叶うように援助を行っている。意思疎通が困難な利用者には生活歴や家族に聞き取りをして試行錯誤しながら援助を行っている。	ほとんどの利用者が言葉で思いや意向を表現できており、日常的に「どうしたいですか」と聞き、職員はその声を尊重し、例えば、誕生日に「焼肉を食べたい、ビールを飲みたい」という希望を叶えている。表現が困難な利用者については、生活歴や家族からの情報を参考にしながら、表情や仕草を丁寧に読み取り、意向を把握する工夫を行っており、例えば、馴染みのあるチーズケーキの店に連れて行ったりしている。得られた情報は介護記録に記入し、職員間で共有することで、利用者の思いや意向をチームで共有して支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に得た情報だけでは不足のため、家族に聞き取りを行い情報把握に努めている。得た情報は職員で情報を共有し、内容を記録している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録に記載し職員が共有できるようにしている。変化があった際には朝に申し送りをしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居の際にご家族の希望を聞き取り、計画に反映させている。本人にもどのように生活したいのか希望を聞き計画を作成している。	日々の介護記録を参考にしながら、ケアマネジャーがモニタリングを行い、短期目標は3ヵ月、長期目標は6ヵ月ごとに介護計画の見直しを実施している。計画の原案は、利用者の希望や家族の要望に加え、主治医や看護師からの情報を反映して作成され、職員間で確認されている。介護計画については、全ての家族に対面で説明し、同意を得たうえで運用し、透明性と信頼性が確保されており、チームで作成した介護計画を定期的にモニタリングし、家族と共有する仕組みが整っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に毎日記録し、変更が考えられる際には職員で話し合い見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	病院受診は、基本ご家族にお願いしているが、県外に住んでいるため、往診での受診とし、利用料等の支払いもお金を預かり、利用者と一緒に事務に向き、一緒に確認しながら行い、領収書を送付している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご家族や本人のニーズに対応して、ホーム内だけではなく、併設の施設や多くの社会資源を十分に活用した支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	望む家族には毎回、情報提供書を作成し本人の状態を伝えている。必要であれば直接電話をして状態を説明することもある。	受診する医療機関は利用者や家族の希望を尊重して決めている。協力医療機関を含め、町内外の医療機関への受診を原則家族同行で行い、家族が関わることで安心感のある受診支援を実践している。受診に際しては、事前に家族へ情報提供書を渡し医師に届けてもらい、受診結果については口頭や書面で報告を受けるなど、情報の双方向性が確保されている。さらに、隣接する老人保健施設の看護師と毎月医療連携カンファレンスを開催し、利用者の健康管理に努めており、家族・医療機関・隣接施設との連携を通じて、利用者の健康状態を継続的に把握し、安心で質の高い医療支援を提供している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎月1回、医療連携カンファレンスを開催し、状態を報告している。医療的な面でわからないことがあった際には看護師が直接、病院に電話連絡をして情報収集することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には電話で状態を確認し、受け入れが難しい場合は併設の介護老人保健施設に移っていただくなど早めの対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りを行っていないことについては契約の際に説明をしている。重度化した際にはご家族と相談し併設の介護老人保健施設やその他の施設等に移ることなど提案している。直接、主治医に相談することもある。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族へ説明し、看取りは行わず、重度化時には住み替えを基本方針として同意を得ている。重度化や終末期には、家族と十分に話し合いを行い、隣接する老人保健施設や主治医が紹介する病院へ転居するなど、適切な支援体制を整えている。また、老人保健施設の看護師と毎月医療連携カンファレンスを開催し、健康状態や支援方針を共有することで、円滑な転居につなげている。看取りを行わない方針を入居時から家族と共有し、医療機関や隣接施設と連携して重度化した場合でも利用者・家族が安心できるよう適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員は普通救命講習を修了している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災に関する避難訓練は年2回行い、併設の介護老人保健施設と協力体制ができている。水害等に関しては避難情報が出た際には、はたとば一とに避難している。食料など有事の際に必要な物は常に備蓄している。	ハザードマップ上で危険区域には該当しておらず、火災を想定した避難訓練を利用者とともに年2回実施しており、消防署の立ち会いによる実践的な訓練が行われている。また、隣接する老人保健施設とは夜間を含めた連携体制が整っており、非常時に相互支援が可能な仕組みが構築されている。さらに、非常時に備えて1週間分の食糧・水やストーブ等を備蓄しており、災害発生時にも利用者の生活を継続できる体制が確保されており、避難訓練・施設連携・備蓄の三点を組み合わせ合わせた災害対策が整備されている。	夜間想定避難訓練を実際に暗くなった時間帯に実施し、夜間特有の課題を把握することを期待します。また、災害時には事業所や法人職員に加え、近隣住民等の協力連携が得られるよう、避難訓練に参加を依頼するなどの検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内での研修を職員全員が受講し、職員間でお互いが声を掛け合いながら、対応を行っている。人生の先輩であることを意識し尊敬の気持ちを忘れないように心掛けている。	利用者を人生の先輩として敬い、呼ばれたい名前を把握したうえで「～さん」と呼称するなど、人格を大切にされた対応を行っている。また、「一人の時間が欲しい」「外に行きたくない」といった多様なニーズを把握し、個別の意思決定を尊重したケアを心掛けている。排泄や入浴時の介助に際しては羞恥心への配慮を徹底し、居室へ入る際には必ずノックと声掛けを行うなど、プライバシーの確保に努めている。利用者一人ひとりの尊重とプライバシー保護を日常的に実践し、安心感と信頼関係の構築につながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が難しい利用者に対しても必ず声を掛けるように配慮している。会話の際には相手の思いをじっくりと聞く傾聴の態度で接し、可能な希望はかなえられるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	余暇の時間には縫い物をしたり、卓球や居室でテレビを観て過ごされる利用者もいる。身体を動かしたいという希望者にはユーチューブを見ながら体操を行ってもらうこともある。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	可能な利用者には自分で洋服を選んで着用してもらうことを基本としている。希望があれば髪を染めたり、パーマをかけたりすることも可能となっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節を感じる事が出来るような献立を考えている。個々の好みを把握し調理を行う際には、食べやすいように細かく刻んだり工夫をしている。食器拭きはほとんどの利用者が積極的に行ってくれている。裏庭の畑で採れた野菜を利用者と一緒に収穫しそれを食材で利用する事もある。	利用者の好みを取り入れた献立を一週間単位で作成し、職員が調理した食事を利用者と同席して会食することで、食事の楽しみを共有している。畑で栽培した野菜や近隣からいただいた野菜など旬の食材を積極的に活用し、季節感のある食事を提供している。また、ひな祭りのちらし寿司、敬老会の寿司、地域住民を招待した芋煮会などの行事食を実施し、食を通じた交流や行事の雰囲気を楽しめるよう工夫している。さらに、パフェなどのおやつ作りを利用者と共に行うことで、調理の過程そのものを楽しんでいる。日常食から行事食・おやつ作りまで幅広い取り組みを通じて、利用者が食事を楽しめる環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの量や水分摂取量は職員が把握しており、食べ残しや飲み残しの状況を日誌に記載している。本人の希望に応じた量を提供している。水分を摂りたがらない利用者には、好みの飲み物を提供し摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施し自力で行えない利用者には介助を行っている。夕食後は義歯をボリデントで洗浄している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	リハビリパンツ、パッドを使用しているが、必ずトイレでの排泄を促し、時間もそれぞれに合わせた誘導を行っている。	8名が自立してトイレで排泄しており、布パンツを使用する利用者が3名、リハビリパンツにパッドを併用する利用者が6名である。排泄チェック表を用いて実態を把握し、適時の声掛けや確認を行うことで、利用者の排泄の自立に向けた支援を行っている。自宅生活では介助が必要であった利用者が、入居後に定期的な排泄リズムを確立し、自立に至った事例もあり、記録と観察に基づく支援を通じて排泄の自立を促進し、生活の質向上に結びつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を多くし、昼食には牛乳かヤクルト等を飲んでいただいている。野菜や食物繊維を多く含んだ献立を提供している。排便チェックを個々に行い、出にくい利用者には主治医に相談し下剤を内服して排便処理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々の希望での入浴は難しく週2回の入浴となっている。	基本として週2回午後に入浴の機会を設け、利用者が30分余りゆっくりと楽しむことができるよう配慮している。好みの入浴剤を使用する利用者もあり、個別の嗜好に応じた工夫がなされている。入浴中は介護職員と一対一で会話が弾むことが多く、心身のリラックスや交流の場としても機能している。また、入浴を避けがちな利用者に対しては、無理に促すことなく時間を置いたり日を改めて誘うなど、本人の意向を尊重した対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後には午睡の時間を設けている。習慣がない利用者には、テレビや本を見ていただいたり、静かに過ごしてもらった時間もある。消灯時間は21時となっているが、各々が自分の休みたいときに就寝している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の服薬情報をファイルし、いつでも見ることが出来るようにしている。疑問な点は直接主治医に電話をしたり、介護老人保健施設の看護師に相談することもある。病院の定期受診の際には情報提供書を持参し主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	若い時から趣味としていた卓球を毎日職員と行ったり、カラオケ教室に通っていた利用者には、レクリエーションでカラオケを行い、楽しんでいただいている。また、手芸を趣味としている方には、個別に楽しむ時間を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節を感じてもらえるよう花見や紅葉など車で外出する機会を設けた。今年の夏はマリオスに出掛け、展望台で盛岡の町並を眺め「初めて来た。」と喜んでいただいた。秋には貸し切りバスを利用し、家族の参加を募り、田沢湖までバスハイクを行った。また、誕生日には外出支援として本人の希望を聞き、昼食やスイーツを食べに行く機会もあった。	穏やかな日には施設周辺の散歩を楽しむなど、日常的な外出支援を行ってきたが、今年は熊の出没により安全面を考慮して散歩を制限するなど、状況に応じた対応をしている。季節に応じて春の花見や秋の紅葉狩りを実施し、道の駅でソフトクリームや甘酒を楽しむなど、外出先での体験を通じて季節感を味わえるよう工夫している。さらに、家族にも呼びかけてバスハイクを企画し、田沢湖へ出向くなど、家族と共に外出を楽しむ機会を設けている。また、前回の外部評価後に、天気が良い日には気軽に外に出る目標達成計画を作成し、「たんたん畑」での野菜の手入れなど、安全面に配慮しつつ日々の外出を実施し、利用者の気分転換や五感刺激の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	数千円程度であれば、可能な利用者は自己管理をしており、併設の介護老人保健施設にある自動販売機でジュースを購入したり、日常生活に必要なティッシュ、練り歯磨き、ポリドントなどを購入することがある。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書く利用者はいないが、本人の希望があれば、施設の電話で直接家族と電話で話することができる。遠方に住んでいる家族が時々電話を下さり、本人と話をすることもある。携帯電話を持って来ている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた行事の写真を貼りだし、自由に閲覧できるようにしている。行事を行ったことを忘れても、写真を見て思い出してくれることもある。	リビング兼食堂は木の温かみを感じられる空間であり、床暖房やエアコン、加湿器により快適な温度・湿度が保たれている。ソファに座ってテレビ鑑賞をしたり、カラオケを楽しむことができ、猫の「マイケル」の存在も利用者に癒しを与えている。さらに、壁面には利用者の手作り作品や行事の写真が飾られ、潤いと活気のある共用空間が形成されている。快適性・楽しみ・癒し・潤いを兼ね備えた共用空間づくりが実践されており、利用者が居心地よく過ごせる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングやダイニングにはテレビがあり、それぞれ好きな番組を観たり、会話をして過ごされている利用者もいる。居室では縫い物をしたり、新聞や雑誌を読んで過ごされている方もおり、各々が自由にのびのびと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族に説明し、自宅で使いなれた家具などを持参してもらっている。寝具などはこだわりがある利用者もいるため、自由に使用していただいている。また、亡くなった家族の写真や位牌を持参し、朝、晩の食事の際に自分のご飯を供えている利用者もいる。	居室にはベッド、クローゼット、洗面台、ストーブ、エアコンが備え付けられており、快適に過ごせる環境が整えられている。利用者は、使い慣れた家具や椅子、家族写真や位牌などを持ち込み、自分らしい空間をつくることで居心地の良さを実感している。また、自室の清掃を自ら行い、気持ちよく生活できるよう工夫している利用者もいる。設備面の整備と個別性の尊重、さらに利用者自身の主体的な取り組みにより、居室が安心して過ごせる生活空間となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の状態を把握し、それぞれができることを行っている。利用者が可能な限り力を発揮できるよう支援し維持できるよう心掛けている。		